第２回男鹿市総合教育会議議事録

１　日時　　平成２７年１０月７日（水）９：００～１０：２２
２　場所　　男鹿市役所３階第一会議室
３　出席者　男鹿市長　渡部幸男
　　男鹿市教育委員会　教育長　鈴木雅彦
　　委　員　目黒惠子
　　委　員　角崎紘二
　　委　員　清水富喜子
　　委　員　山本貴紀

第２回総合教育会議議事録

●事務局

ただいまから第２回男鹿市総合教育会議を開始いたします。はじめに渡部市長よりあいさつ願います。

●市長

みなさんおはようございます。大変ご多忙のところ男鹿市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。男鹿市は現在男鹿市版の総合戦略を策定しております。そのテーマは４つであります。１点目は産業の振興による雇用の創出、２点目は移住定住対策、３点目は少子化対策、４点目は地域社会の維持、活性化これをテーマにしております。男鹿市が目指しておりますのは、教育・観光・環境であります。前回定めていただきました教育大綱に基づきましていろんな政策を進めてまいりますけれども、取り組み状況・進捗状況を皆様からご意見いただきながら方向性をかためていきたい、そしていじめ問題に関する報告を申し上げたいと思いお集まりいただきました。みなさまからいろんなご意見いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございました。続いて鈴木教育長よりあいさつ願います。

●教育長

おはようございます。４月２０日に開催されました第１回総合教育会議では教育大綱の案についてご協議いただきました。その際学力の向上に関することやコミュニティ・スクールの運営方法、読書活動の推進、文化財の維持管理と活用方法などについてご提案をいただきました。５月に教育大綱を策定後、教育委員会ではいただきましたご提案を踏まえまして、大綱に示された５つの目標の実現に向けた取り組みを推進しております。本日は市長からお話ございましたように教育大綱の推進に関わる取り組みにつきまして、事業内容や成果と課題をもとに、様々な角度からご意見いただきたいと思います。学校教育、社会教育のより一層の充実に向け、市長と教育委員会がこの総合教育会議を通して意思疎通を図り今後も連携して効果的に教育行政を推進してまいりたいと考えております。本日はよろしくお願いいたします。

●事務局
　ありがとうございました。それではこのあとの進行につきましては今回の会議を主宰します市長よりお願いいたします。
●市長
　それでは進行を務めさせていただきます。よろしくご協力お願いいたします。お手元の次第の４の１．男鹿市教育大綱の推進に係る取り組み状況についてであります。事務局から説明してもらいますけれども、案件が非常に多くなっております。皆様からのご意見は一つ一つの項目に従って区切って進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。それでは事務局から説明お願いいたします。
●事務局
　～1.教育環境の整備～についての説明
●市長
　ただいまの教育環境の整備について皆様からご意見いただきたいと思います。
●角崎委員
　コミュニティ・スクールとはすばらしいことをやるわけで、先が見えない部分もあるだろうと私はそう思っております。準備委員会を設けていろいろ話し合いをしていると思いますが、今までのところ順調にいっているのかどうか、各小・中学校における進捗状況の報告は学校教育課の方にあるのか、教えてもらいたい。それともう一つが学力向上のことについて教えてもらいたい。いろいろ素晴らしいことをやっているんで結構だとは思うのですが、今回全国学力テストで中学校はいいところいっているような気がします。小学校６年の時もよかったのですが、それにしても中学校に入ってからぐっと伸びているな、と資料をみてそう思いますので、学力テストに関する評価、どう考えているのかを伺えればと思います。
●事務局
　コミュニティ・スクールについて説明させていただきます。さきほど、各学校において３，４回準備委員会を開催するということを申し上げましたが、これまで２回程度行っておりまして、教育委員会からも指導主事が出向いて進捗状況を確かめております。学校によって準備委員の数は違うのですが、おおむね１０名程度の委員がおりまして、委員を決めることから始めておりますが、実際に学校を支援する、学校が地域を活性化するためにどんなことが出来るかといった建設的な話し合いがされております。具体的な例といたしましては準備委員会、将来的には学校運営協議会というものを立ち上げて、それを支える組織として学校支援ボランティアの募集や学校支援ボランティアが PTA の各組織と連携して、安心安全部、学習支援部、環境生活部といったような組織を立ち上げて、その中で学校の取り組みを進めていくといった流れで各校準備を進めております。
●教育長
　私のほうから今回の全国学力・学習状況調査の結果についての評価と捉え方についてご説明いたします。平成１９年の学力調査の開始以来、小・中学校とも国の平均はすべて上回っておりますけれども、結果としまして小学校について全国トップの本県の平均通過率を中々上回るのが難しいというのが現状です。今回の結果につきましても、県の平均と比べますと

３～５ポイント程度下回るといった状況ですので、一層の小学校の授業改善を教育委員会としてもきめ細かい支援を引き続き行っていきたいと考えております。中学校３年生につきましては活用の方の数学Ｂが県平均よりも０．７ポイント下回りましたが、他の国語Ａ・Ｂ、数学Ａ、理科はすべて県の平均通過率を上回るというこれまでにない良好な結果となっております。今までも県の平均通過率を１,２教科上回るといったことはございましたけれども、今回は中学校３年生は大変良好な結果ということで、小学校６年生の時も県平均と同レベルの成績でしたけれども、３年間で伸び率が大きくなっているといった結果となっております。もう一つコミュニティ・スクールにつきまして補足になりますが、いま平成２８年４月の導入に向けてすべての学校で核となります学校運営協議会の設置に向けて人選等を進めております。地域の方々が学校運営に参画するといったこれまでにないスタイルの学校経営となりますので教育委員会でも学校の活力の維持、と学校がどんどん地域に積極的に進出すると言いますが、地域の行事に参加し地域の活性化に寄与できるシステムと認識しております。冒頭市長から市の総合戦略ということでお話ありましたが、その中の少子化対策ですとか地域社会の維持、活性化にも小学校・中学校としても貢献できるそういったコミュニティ・スクールにしていきたいと考えております。特に教育委員会として学力の向上も含めまして、総合的な学習の時間を通して、地域を学ぶ地域の体験的な活動を進めていくことで地域を知って男鹿市の良さ、あるいは学校を卒業してから男鹿市に戻って男鹿市のために尽くしたいと、高い志をもった人材育成ということで併せて進めていきたいと考えております。

●市長

ほかにご質問・ご意見ありませんか。

●目黒委員

市で専門家から陸上競技の指導を受けて大変いい授業を行っているなと思うんですけれど、この運動能力を図るための授業として合理的な走りのフォームを見て児童は興味を示して大変いい結果が出ていると思うんですけれども、年に１回の授業を学校に戻ってどのように活用しているのか見えてこないと思うのですが、その辺についてどうのように教育委員会では学校の方に繋げるように指導しているのでしょうか。

●教育長

２人の陸上競技の専門家の方からご指導いただいております。春の運動会の前と秋の陸上大会の前にご指導いただいております。残念なのが２～４回教えていただいたことが通常体育の授業で毎時間それが結びついていないこともありますので、教えていただいたことを体育の授業や日常の業間の運動でもいいんですが、つなげていくような工夫がちょっとまだ足りないのかなと、継続していかないと身につかないと思いますので、学校の方にもこのことについては指示していくと考えております。去年の文科省の新体力テストの５０メートル走では、いい結果が出ておりますので、成果は少しずつ出てきているものであります。これまでにない県や国の平均を上回るといったことになっております。継続することで成果は出るととらえておりますので学校の方にも校長を通して指示していきたいと考えております。

●市長

長休みに外に出て遊んでもらいたいと学校に行ったときにお願いしておりますけれども、

草が生えてる暇がないくらい。
●教育長
　２０分の業間の休みで小学校は外で運動するといったことは結構やっておりますので、遊びでも身体を動かすというのは大変いいことでありますので体系的にできればいいと、マラソン大会につなげていければと考えております。
●市長
　体力テストのボール投げ、立ち幅跳びそういったことが休み時間でやれる環境、ボールとかってたぶん子供たちは握ったことがないでしょう。投げ方を教えてもらうこともやっていただきたいですね。
●目黒委員
　ちょっと関係ないんですが、今まで遊具ってあったと思うんですが、今ほとんど古くなってやめてしまっていると思うんですが、そういうものの増設する計画はありますか。
●教育長
　昔あったジャングルジムや鉄棒といた器具ですよね。今新しく学校に設置するといったことは難しいんですけれども、鉄棒の整備を行っております。
●市長
　小学校の鉄棒というのは低いんですよね。今の子供たち大きいですから、たとえば船一小学校の鉄棒なんてものすごく低い。前はよかったんですけれどもね、それが今も小学校のそのままの基準になっているので。
●教育長
　基準で低いの中くらいの高いのとありますけれども、全部基準に沿ったものを設置しておりますけれども、今市長のお話にあった低いという話で、
●市長
　一番高いのが低いんですよ。今の小学生は通常でもぶら下がると足がつく。遊具よりもそういった鉄棒だとかそういったものを整備した方がいいと思います。
●目黒委員
　遊びながら体力をつけるという面もあるので低学年なんかは昔第二小学校はすごい立派な遊具があって放課になるとすごい児童が走っていくというものがあったので小さい時からの積み重ねって大事だから鉄棒は１人でやっていれば、危険な状況というか、いろんな体力というかついていってからとりかかるという段階があると思うので低学年にもあればいいなと。
●市長
　器械体操の専門家から教えてもらえばいいと私はお願いしているんですよ。鉄棒とマット。教える先生いませんので。よろしいでしょうか。
●目黒委員
　はい。
●市長
　それでは２．地域間交流についてお願いいたします。

●事務局
　～２.地域間交流の機会充実と国際交流の推進～について説明
●市長
　みなさまから意見お願いいたします。
●山本委員
　ふるさとに生きるというところで春日井市と交流されておりますけど、やられてから何年たっておりますか。こっちから行くのは連休か何かにあてて向こうに何を見学しに行っているのかということ、バランスも含めて見直しというかやり方を変える時期に来ているのではないかと私は思います。こちらの受け入れの時はホームステイさせてこちらの保護者が受けて観光させるイメージを持っていたのですが、歴史的な部分も含めて、秋田は教育の部分で高いレベルもあると思いますが、逆に向こうから来た時に普通の学校の時間に入れて授業体験してみるようなこととか、こちらから行ったときに向こうの授業を体験するといったような形に切り替えることはできないものでしょうか。
●教育長
　春日井市との児童の交流は今年２９回目となっております。梨が縁ということで交流を続けております。春日井市からこちらへ来る子供は夏休みの８月の上旬の期間、男鹿市からは向こうの春日井祭りに合わせて１０月に行くという形をとっております。例年子供の数が少なくなっておりまして、向こうからくる３０数名と同じ人数を確保するのが難しくなってきている現状であります。子供たちはホームステイを一番楽しみにしていて、春日井から来た子供もホームステイが一番良かったと、メインはその土地ならではの自然や歴史文化の見学になりますが、それに合わせて学校での交流学習を行っております。授業に参加するということはないですけれども、子供たちと学校ごとに交流会を行うということで、男鹿の場合は、なまはげの伝統的なものを子供たちに見せて理解してもらうといったことを行っております。人数はバランスが取れないと
●山本委員
　男鹿市からは何人行っているのか。向こうは３０数名来ているというが。
●教育長
　２３人です。
●山本委員
　それは男鹿市全部から募集していくということですか。
●教育長
　はい。７校から２３人となっております。（事後補足：児童は１９人、引率４人）
●山本委員
　旅費は全額市で持つというのですか、それとも保護者負担もあるのですか。
●教育長
　保護者負担もあります。行った子供たちは大変いい印象をもって、行ってよかったという感想をもっていますので、ご指摘いただきましたとおり、見直しというかもっと充実させるためにもっとどういった内容がいいかを含めて見直しが必要となっております。

●山本委員
　もう２９年もやって向こうから来てくれているわけじゃないですか。そういった中でもう一度男鹿に来たいとか、動向調査ではないですけれども、そういったところにもう一度行ってみたいというものもあると思うのですよ。そういったところにつなげていければ、もっと先に交流もできると思いますし、保護者の方にお金がかかるということを私はわからなかったわけですが、せっかくの機会ですので少し見直しをすることでいい形に持っていければいいと思います。
●教育長
　男鹿に小学校の時に来て、大人になってから再度来たという方が何名かいると伺っております。父親と交流学習後に男鹿に来たという子供もおりますので、つながりで家族で男鹿に訪れるという流れを作れたらいいと考えております。
●市長
　子供たち来た時にお互い市長に表敬訪問するんですよ。子供たちは堂々としていますね。男鹿の子供たちも向こうの伊藤市長に聞きますと、立派だと言ってもらえるんですよ。場数を踏むということになると、市長に行くとなれば向こうも幹部の人がそろって、緊張する中で代表挨拶したりセレモニーをしたりするわけですよ。そういったことだけでも意味があると思うんですよ。それからホームステイしますから、子供本人だけでなく親兄弟みんな男鹿のことわかるわけですよ。男鹿市の人も春日井市のことをわかるようになります。春日井は名古屋の隣で人口３０万人を超えると市ですけれども、男鹿のことをわかってくれている人が増えていって、男鹿に行ったと話題になりますから。そういったことだけでも意味があるのではないかと思いますね。
●目黒委員
　ホームステイする場合、春日井なんかはたくさん学校があるわけですし、別れてホームステイするわけですか、それとも一つの学校に集中するわけでなく。
●教育長
　それぞれの家族のところにホームステイします。
●目黒委員
　広い範囲に散らばるのですか。春日井市内の。
●市長
　来る子供は各校１人なんですよ。３０数校ある学校から。
●山本委員
　バーターするわけですね。行った人は当然受け入れもしなければならないということですね。
●市長
　子供たちっていうのは集まってくると一つの学級のクラスなのではないかというくらい打ち解けていますね。会って２回目くらいのはずですが、研修で会ってすぐ交流に来てもう男鹿に来るときには一体化していますね。一クラスが来ているようなものです。

●山本委員
　活動の中身というのは完全にフリーなのですか。市長の表敬訪問等の公式行事はあると思いますが、他の内容については預かった人の任せるということですか。
●教育長
　家族のプランで行っていただいております。
●市長
　よろしいでしょうか。それでは３．生涯スポーツ活動の推進についてお願いします。

●事務局
　～３．生涯スポーツ活動の推進～について説明

●市長
　生涯スポーツ活動の推進についてご意見お願い致します。
●角崎委員
　「健幸都市づくり」の『幸』の字が意気込みが伝わってくるようでよろしいですね。この意気込みというのをお教えいただければと思います。
●市長
　これは筑波大学の久野教授が提唱しているスマート・ウェルネス・シティというんですね。歩いて暮らせるまちづくりによって、みんなが健康に幸せになるという都市を目指すという構想がありまして、全国の自治体の首長が参加する研究会を開いておりまして、その時に使っている言葉がこの『健幸社会』。歩いていることによって、筑波大学の実証実験によれば確実に医療費が減る、介護に係る人が減るそういった結果が出ておりますので、これからの超高齢社会においては公共交通を活用した歩いて暮らせるまちづくりが必要だと賛同する首長が非常に多くて会員が増えている、男鹿市も参加しております。そういう意味でまちづくりにもつながる話です。一カ月に一回でいいのでカタカナで言えばマルシェ、市場、この間船川で若者たちがひのめ市を開催してくれました。そのときに赤ちゃんを抱いた若いお母さんたちが多かったですよ。主催者もこんなに来場者が多いと思わず、食事は早い時間に完売、日曜日やっている某レストランも完売したという経済効果はあったわけなんですね。それに近いような街中に自然と人が集まるようなとういう風なまちづくり『健幸都市』づくりということです。普段から歩く習慣、公共交通機関を使ってできるだけ歩く習慣を身につけようとそういう機会を増やそうと。チャレンジデーはどういう運動でもいいからやってくださいと進めているわけです。久野教授以外でも WHO による健康都市連合なるものもあります。健康を絡めたまちづくりというのは各自治体とも熱心に取り組んでおり、どこも高齢化が進んでいますから介護の費用を抑えるため、またそれ以上に健康寿命が延びてほしい。平均寿命が延びても自立して暮らせる寿命には１０歳程度開きがありますので、その期間を短くすると本人も楽だし、周りの人も負担がないし、社会的にも負担がかからないというものです。

●角崎委員
　いいですね。健康寿命が延びるというのは。
●市長
　これは実証実験で間違いなく出ているのです。１歩歩くごとに０．何円、換算すれば何億という数字が出ているのです。数字上では。そういうことをみんなが少しずつでもやってもらえれば結果は必ず出ると思います。
●角崎委員
　もう少しPRして歩いて暮らせるまちづくりが進めばいいと思います。
●市長
　公共交通機関を活用しないとどんどん衰退していきますから、いろんな会合でも車を前提としないで、バスや鉄道時間に合わせた時間に開催して、時間に合わせて閉じてくれとお願いしているわけですけれども、なかなか実際には市のバスを出してくれとかという話になってしまってますが、定期をもってバスを利用している方もいらっしゃいまし、そういう人が増えていけば今言っているまちづくりにつながっていくと思いますね。
●目黒委員
　市民がスポーツに一生懸命になるというのはいいと思いますが、高齢者に対してのどのようなスポーツを提唱し、どの程度参加者がいるのかというのを教えてもらいたい。
●事務局
　各公民館においては、地域の高齢者から参加いただいております。新聞でも報道いただきましたが総合型の方で円熟体操を県とタイアップいたしまして、市の総合体育館、脇本のB&G体育館の方でそれぞれ１０回ほど行いまして、総合体育館では１回あたり５０人ほど、B&Gの方では３０人ほどの参加があったと聞いております。毎回体力テストをやっております。それの比較はまだ出ておりませんが、筋力等についてはアップしているのではないかと期待しているのですが、そういった意味で参加者は増えているのではないかと思いますね。
●目黒委員
　そういうことはPRしているのですか。市報にも載せているのですか。
●事務局
　募集にあたって市報に掲載しております。終わった後にはさきがけにとりあげていただいております。
●市長
　関連しますけど、ご高齢の方の場合、腰とか膝が痛い方おられますけども、去年の健康フェスタをみなと市民病院でやった時に、みなと市民病院の理学療法士に来てもらって膝の痛みを和らげる講師をしていただいたのです。それを受けた人は街中歩いている人多いですけど、聞けば割合よくなったという人が多いです。特にご高齢の方は集まってというのもいいですけれども、近所の人と歩くというそういったことから行かないとなかなか、さっきみたいにB&Gの水中ウォーキングですけど。屋内式に改修して利用期間が延びたので、水の中だと転んでも怪我しないですし、そもそも転ばないし、そういったものを整備していただければいいと思っております。成果が出ると考えております。今都会のプールですと、ご年配

の方がプールで水中ウォーキングが盛んに行われております。さきほど３０人とのことでしたが、もっともっとやればいいと思っています。腰や膝に負担がかからないですし。プールが屋内になったということも皆さんから幅広くご周知願えればと思います。
●清水委員
　ミニチャレンジデーとはどのような取り組みでしょうか。
●事務局
　チャレンジデー・ミニチャレンジデーともに一日に１５分以上運動をやられた場合に生涯学習課に連絡いただいて集計して参加率を出させていただいているものであります。チャレンジデーは年に１回という形ですけれども、ミニチャレンジデーについては毎月最終水曜日をミニチャレンジデーとして報告いただくように進めているものです。
●清水委員
　これは自分で公民館に申告するものですか。
●事務局
　教育委員会なり、公民館なり、地域の教育施設にご報告いただければ集計いたしております。
●目黒委員
　これは意外と知らないのではないでしょうか。
●市長
　広報とかで説明してもなかなか伝わってないような形です。平日でも運動をする習慣があれば休日でもやるでしょうし、ミニチャレンジデーを行っているのは年一回よりも毎月毎月報告した方が運動の習慣づけになるので、市民に伝えていければと思っております。
●目黒委員
　スピーカーで話してもらえればいいのではないか。なんとなく生活しているので。
●市長
　それからこのチャレンジデーでいいことというのは、通常何事も行政の方からお伝えして何人参加してというのはつかみきれないです、会場にでも来ていただかない限りは。この場合は市民の方からご報告いただきますから、グループでも個人でも、今年初めて５０％を超えたものですから、市として反応が見える、数字として。市民の方が参加していると申告してもらうことで今後この方式をいろんなところで取り入れていけば、一方通行でない双方向のやりかたが出来るのではないかと期待しております。取り組みの一環として。
●教育長
　スポーツ合宿の誘致について補足でありますが、今年高校生のラグビーとサッカー、大学のレスリングの合宿を行っていただきました。９月に日本体育大学の集団行動の合宿を８日間行っていただきました。企画政策課で担当して行ってもらいましたが、船川南小学校の児童が当日、７４人の学生から歩き方の指導をしてもらって大変良かったと聞いております。来年度以降も男鹿でやっていただければもっと多くの子供たち、先生方にも体育の授業で行かせるものでありますのでそれについて考えているものであります。
●角崎委員

スポーツ合宿は評判がいいです。合宿した以外に公開して触れ合いがあるのでいいと思いました。
●清水委員
男鹿で合宿してどういった意見というものがあるのでしょうか。
●教育長
私の内容までは詳しく聞いておりませんが、環境が素晴らしい、食事がよかったというプラスの声がよく聞こえてきます。
●市長
夏やっているところは朝夕が涼しくて、休めるという話があります。また食事も大変良かったと聞いております。参考までにさきほど大学のレスリング、専修大学に来ていただきました。秋田大学のなまはげ分校長と親しい間柄ですので。よろしいでしょうか。それでは４．生涯学習の推進について事務局からお願いします。
●事務局
～４．生涯学習の推進～について説明
●目黒委員
生涯学習についてやりたいものアンケートを取るということは難しいのでしょうか。
●事務局
実際はアンケートとっておりません。地域の方の意見を聞くようにしておりますが、各公民館に対し、新た事業を一つ以上行うよう指導しております。
●清水委員
講師の選考は、本人がこういうことが出来ると申告して採用されるのか、市から委託するのかどちらが多いのか。
●事務局
ほぼ全員が市からお願いしております。名簿等から選んでおります。
●目黒委員
何人か集めて、先生をやってくださいとお願いすることもできるのですか。
●事務局
公民館の中ではそういった形で便宜を図った事例もあります。
●清水委員
講師を探す場合、各団体にきちんと届出をしている人を選んでほしい。他市では団体に属していない人が講師をして問題となっている例があるので、男鹿市も気をつけて頂きたい。
●事務局
男鹿市の場合、生涯学習課にある人材バンクに登録されている人や県の行動人という人材育成しているものがありますので、その中から中身を見て活用させていただいている。
●市長
育児体験について説明してもらってもいいですか。
●教育長
健康子育て課と連携して行っているものでして、小学生中学生が、赤ちゃんを抱っこした

りして、生命の尊さを感じ取っていただきたいというもので行っております。まだ全体までいっておりませんけど、赤ちゃんの人数が足りないということもありますけれども、命・心の教育も含めましていろんな学校でできるようになればと考えております。
●市長
　人口対策、将来的に結婚、出産といったものにつなげていくためのものであります。よろしいでしょうか。それでは５.芸術・文化・伝統の保護・継承についてお願いします。
●事務局
　５.芸術・文化・伝統の保護・継承説明
●角崎委員
　補助金は４団体だけですか。
●事務局
　この補助金は４団体のみです。
●教育長
　地域の伝統行事につきましては、統人行事については船越小学校、脇本山車どんどについては脇本第一小学校で総合的な学習の時間に子供たち取組んでおりますが、コミュニティ・スクールの中で地域を巻き込んで充実を図ることが出来ると考えているので、学校の方に話していきたいと考えている。
●市長
　男鹿の保育園、幼稚園についても盆踊りについて地域の方と一緒にやってもらいたい、若美の渡部地区においては若美南保育園と一緒に行っているということです。幼稚園、保育園、小学校も入れば親も必ず行きますから、盆踊りが盛り上がります。コミュニティ・スクールでもそういったことに力を入れてもらえれば、盆踊りだけでなく他の行事でも一緒にできるようになります。顔を合わせることが必要ですからね。
●清水委員
　船越小学校の学習発表会で統人行事の太鼓と盆踊りをやってとてもいいなと感じました。去年東中でも、統人行事の太鼓をやったと思うのですけど、今年はなかったのであれですけど、小学校で習うというのはとてもいいと思います。
●教育長
　地域への愛着という意味でとてもいいですよね。
●清水委員
　盆踊りなんかもきちっと正しく教えるということが大事なので、適当に踊られては困るなと、地域の人たちが正しく教えてあげなければいけないなと。
●目黒委員
　それぞれの地域行事についてあまり見る機会がないので、文化会館に集めるなどやったほうがいいのでは、結構知らないものもあると思う。
●市長
　文化会館に一堂に集めるか、それとも現地に誘導を強化するかとなれば、現地で見てもらう方がいい。お祭りを集めてやっても今一歩盛り上がらない、知ってもらって現地に見に行

ってもらえれば、観衆がいればやっている方も盛り上がりますし、集めるよりもいいかと。
●目黒委員
　毎回やるのではなくとりかかりとして、こういうのがあるというのがアピールする意味で。
●市長
　そういうものも含めて先ほど言ったコミュニティ・スクール、地域の子供たちだけでなく、男鹿市全体の子供たちに見せて伝われば、親に伝わりますし、地域に伝わるそういう考え方だと思います。そういった意味で子供の力って大きいですよね、必ず親に伝わりますから。
●清水委員
　音楽祭の間に紹介していくというスタイルでもいいのでは
●市長
　先ほど１０月２０日の話をしましたけれども奈良大学の千田学長がいらっしゃるのと、山歩きが好きな落語家の春風亭昇太さんがいらっしゃるということで募集人員を大幅にオーバーしました。最終的には県外からのお客さんを優先して招待するということにいたしました。４０人の募集ではとても間に合わない、千田学長は大変な権威ですが、物おじせずに言ったら来てくれたという非常に気さくな方ですけれどもね、そのご縁で春風亭昇太さん、山ガール、ジャーナリストの萩原さちこさんもいらっしゃる。脇本城について今度復元の中間発表が出るようです。５についてよろしいでしょうか。それでは報告についてお願いします。
●事務局
　～いじめの現状と未然防止策～について説明
●市長
　（1）いじめの現状について皆様ご意見おねがいします。
●角崎委員
　新聞に取り上げられるほど社会的に問題となっている事案は、学校が組織的に対応できていないと思われる。個々で抱え込んでいる。もう一つは教員がいじめを軽く見て初期対応をとる機会を失った時に大きな事案につながっているのではないかと感じています。本市における取組を見ますと、これをきちんとやりますとかなりいじめは減少できると思いますので、より一層のきめ細かな対応をお願いします。
●教育長
　：今おっしゃったとおり、初期対応がすべてとなっております。すぐ情報が校長に伝わっているか、事実確認も含めて校長へ報告をする。そのためにも教員が子供たちの表情の変化ですとか、友達関係の変化といったところへアンテナを張って鈍感にならず、校長会でも毎回話しておりますけど、軽く考えて重い結果にならないよう、重く考えて軽い結果になるのはいいですけれども、毎回学校へ伝えているところであります。
●角崎委員
　前の教育長の時から学校訪問の際にいじめのことを話してくれて、誰にでも起こりうることであると、そういったことも効果があると思います。
●目黒委員
　いじめについていろいろなものがあるというのは先生方の情報交換でわかると思うので

すが、研修の機会を設けていただければ先生方も理解が深まるのではないか。
●教育長
　学校ごとに学年部ですとか、いじめ対策委員会を作っておりますので定期、不定期に情報交換する機会はあります。経験している人と経験していない人では捉え方も違いますので、情報交換の中で力を付けていくこともできますし、県の総合教育センターでいじめについての教員研修の機会もありますので、学校からは１，２人しか出ないですが学校に戻って、全体に伝えると効果上がりますのでそういったものの充実について話していきます。
●清水委員
　昨日耳にしたばかりの話ですけれども、中学校に携帯を持っていき、先生からの注意がないし、その携帯で写したクラスの生徒の写真をラインに流しているそうです。学校において禁止しているようですけれども、それをさらに強く禁止するよう写されて流された子供たちが非常に不快な思いをしていて、やめろといってもやめないといった話を昨日耳にしましたので、改めて指導していただければと思います。
●教育長
　携帯電話の持ち込みは許していないですけれども、教員によって対応に違いがあるかもしれないので、そこについては伝えていきます。
●市長
　これについてはよろしいでしょうか。つづきまして不登校の現状と支援についてお願いします。
●事務局
　～不登校の現状と支援～について説明
●市長
　不登校について皆様からご意見いただきます。
●目黒委員
　スクールカウンセラーがついていますが、男鹿市の場合どういう方がついているのか。どのような資格を持たれて、どれくらいの感覚で学校に行っているのか。
●教育長
　臨床心理士に資格を持った方を男鹿東中学校に配置しておりますけれども、週２日、毎日ではないのですけれども専門の方を配置しております。
●目黒委員
　その方は他の学校へは回られるのか。
●教育長
　東中のみです。
●目黒委員
　子供さんが興奮したり、ご父兄の方に病院に相談するよう勧めても、断る例が多々あるのですけれども、そういった場合専門家が対応するのはいいと思うので、各学校であると思うので、スクールカウンセラーの先生を月一回でもいいので行っていただければいいと思います。

●教育長
　スクールカウンセラーの派遣の規定上、問題があると聞いておりますけれども、東中に訪れて相談を受けるのは可能だと思いますので、そういった機会やそういった方がいるといった事を学校に情報提供して、対応していただければありがたいなと思います。
●市長
　子供だとすれば、ネウボラ関連で臨床心理士いますから市民福祉部と連携して、親の悩みを聞くっていうことでもいいですし、連携していただければ。
●教育長
　今年から市の職員で臨床心理士の資格を持った方がおりますのでそちらのほうと連携して進めていければと思います。
●目黒委員
　こういうこといっていいかわからないですけど、男鹿南の中学生に不登校の子供がいるのですが、学校で対応する範疇でない問題もあって、専門家にお願いしなきゃいけない家庭内の問題が子供に影響していると思います。そういうところで学校がやることもできないときは、けじめを付けて専門家にお願いすることで、抱え込んだまま卒業するというケースもうまく対応できるのではないか、
●市長
　背中を押すという意味で。専門的な方が言うことで親の受け止め方も違いますから。学校の先生の言うことと違う対応になります。
●教育長
　状況によっては福祉事務所と連携して対応しているケースもありました。家庭内のことであれば。
●山本委員
　男鹿市の不登校の状況は全県と比べてどのような比率になっているのか。多いのか少ないのか。あと、中学校１年生で不登校になると３年生まで引っ張る形と思うが、年代で言うと同じ子になりますよね。原因がわかっているもので、直せるものでうまくいった例があると思うので、そうしたものをオープンにしてもらいたい。家庭の事情なのか、本人の心の悩みなのか、部活動なのか。これといじめが連動しているかどうかはわかりませんが、あるかもしれないので。対応の仕方がそれぞれ違うと思います。
●教育長
　資料に挙げておりますのものはすべて中学生となっております。出現率は県の割合の平均と比べても同じか低いものですが、１人であっても１０人であっても、決しておろそかにできない、大事な生徒で学校に出てきてもらいたい、学校では家庭との連絡委が立ち消えないように進めております。まったく学校に来れない生徒も休みなしで学校に来ている生徒もおります。主な原因として、いろいろあげられておりますが、複数の要因が絡まっているものがほとんどであります。
●山本委員
　ゲームをやっていてということが、こういうことがあがってきているということ自体が改

善の使用がある。複合的な要因の一つでこれがたまたまあがってきたのかもしれないけれども、直せること踏み込めること、ありますよね、家庭的な問題ですけど。

●市長

　これはゲームしているというのは引きこもりをしてゲームしているということじゃないのですか。単にゲームして不登校になっているのではなく引きこもっているから。

●角崎委員

　全国的には中一ギャップで不登校が出ると聞いていますが、男鹿はそういうのは見えませんね。

●教育長

　特に中一ギャップというものは見えていません。

●角崎委員

　小・中連携がうまくいっているのでしょうね。

●市長

　不登校についてよろしいでしょうか。予定していた案件の報告はすべて終わりましたけれども、皆様から何かございますか。なければこれをもちまして第２回男鹿市総合教育会議を終わらせていただきます。ご意見をいただきありがとうございます。またよろしくおねがいします。